

令和元年度2学期始業式校長式辞（9月2日）

今日から2学期が始まります。夏休みはどのように過ごしましたか。

休み中も、皆さんは、補習、部活動の練習や全国レベルを含めた大会、海外留学、ボランティア活動、進路関係行事等様々な活動に参加していました。朝日高校では今後、皆さんの成長の姿や本質を捉えた言葉を、夏休み中に限らず出来るだけ、ホームページ等で発信していきたいと考えています。

夏休み中、私が印象的であった行事は、8月23日の2年生希望者対象の「東大・京大ガイダンス」です。東大・京大に進学した先輩8人から、体験談とアドバイスをいただきましたが、特定の大学志望者に限らず、朝日高校の生徒全員に知っておいてほしいものでした。そこで、更に内容を深めたいと思い、会の終了後、都合のついた5人の先輩と校長室で協議しました。その内容の一部を紹介します。

まず、他の人と関わりあいながら、正解のない課題解決に向けて取り組む経験を、全員が高校時代に、どこかで体験する必要があるということです。

このことは、AI時代・超スマート社会・ソサエティ5.0時代等新しい社会を生き抜く力を身に付けるためであり、AIにない人間の強みを意図的に育成することです。

さらに、近年の追跡調査による実証研究には、例外はあるものの、このような力の育成は大学からでは遅いので、高校までに行うべきというものも見られます。大学デビューでは遅いと言うのです。朝日高校の場合、今まさに準備を進めている朝日祭、部活動、イギリス研修、授業等様々な場面で取り組まれています。

では、なぜ全員が取り組む必要があるのでしょうか。それは、新しい社会を生き抜くためであり、それを一部の人に任せてはならないからです。そして、背景として、リーダーシップ論やリーダー論の転換があります。

かつては、課題解決は一部の人・リーダーに任せればよい、リーダーは、方向を

決めて引っ張っていく特定の選ばれた人という考え方やリーダー像がありました。

しかし、近年、チームの一員として協働する中で、自ら行動するとともに他者にも働き掛け、必要に応じて支援しようとする「リーダーシップ」を発揮して課題解決に当たることができる人が求められています。リーダーシップを広く捉え、全員がリーダーシップを持つ組織の強さが注目されているのです。

このことは、朝日の教育方針である「自主自律」、成すべきことを自ら考え、学び、主体的に行動する生徒を育成するということに繋がるのではないのでしょうか。先輩も、「自主自律」をこれからも朝日では大切にしてほしいと強調していました。

次のことは、1学期の終業式で皆さんに、私が話したことと似ています。それは、大学での自分、大学後の社会で働く自分、自分はどう社会に貢献するのか等人生の目的は何かを高校時代に考えるということです。先輩は、自分で決めたことは強いモチベーションと達成に向けての学習の努力に繋がると言いました。また、自分の成長を信じること、他の人とは切磋琢磨するが比べないことも大切です。

朝日高校の教職員は、全力で皆さんの努力を支援します。2学期の成長を期待しています。

(岡山県立岡山朝日高等学校 校長 竹田義宣)